

オプション教材イバラ 読解マラソン集



読解問題のもとになる長文です。読解問題をやる人は、時間のあるときに読んでおきましょう。

読解問題は、清書の週で時間があまったときにやってください。時間がないときは、やらなくていいです。

読解問題は、選択式問題の解答のコツをつかむために行います。適当に全問やるのではなく、一問か二問でもいいですから確実に正解にするつもりでやってください。

読解問題の答えを作文用紙に書く場合は、問題の番号と答えがわかるように書いてください。書き方は自由です。読解問題の用紙は返却しませんが、選んだ番号と正解は「山のたより」に表示されます。

読解マラソンの問題のページから答えを送信すると、その場で採点結果が表示されます。（この場合、作文用紙に答えを書く必要はありません）

▼作文用紙に答えを書く場合（書き方は自由です。
作文用紙の余白などに書いても結構です）

▼読解マラソンのページから答えを送信する場合（この場合作文用紙に答えを書く必要はありません）
<http://www.mori7.net/marason/ki.php>

1.

3.

5.

5.

富士山の高さは三七七六メートルです。頂上を目指して登る人はいますが、頂上に住んでいる人はいません。しかし、世界には、この富士山よりももっと高いところで生活している人がいます。

高地では様々なおもしろい現象が起こります。例えば、ケーキやパンがうまく焼けなくなります。ケーキやパンが膨らむのは、生地の中に含まれる空気の泡が膨張するからです。高地ではこの空気の泡が膨れすぎるのです。すると、パンの出来上がりはぼそぼそした感じになります。もっと悪ければ、空気の泡が破裂してぺちゃんこになってしまいます。

標高の高いところでは、ゆで卵ひとつ作るにも注意が必要です。普通なら十二分程度で固いゆで卵ができますが、高度千五百メートルのところでは一分長く、高度三千メートルでは三分長くゆでなければなりません。そうしないと、半熟のゆで卵ができてしまうからです。

変化が起こるのはケーキやパン、ゆで卵だけではありません。高度が上がるにつれて気圧が低下するため、空気中の酸素の量も減っていきます。高度五千メートルでは、酸素の量は平地の半分にまで減ってしまいますので、ほとんどの人は頭痛やめまいに悩まされます。また、高所では紫外線などの光線から守ってくれる大気が薄い

ため、目や皮膚を傷めることもあります。いろいろな注意が必要な高地での生活。早く慣れるにはコーチが必要かもしれませんね。

「コーチ、高地の生活って大変なんですね。」

「ぼくは、もともと高地に慣れているから大丈夫だけど。」

「へえ。コーチはこの出身なんですか。」

「高知県。」

言葉の森長文作成委員会 (三)



鏡をつかっておもしろいことをしてみましよう。あなたの顔が正面から大きく写っている写真を用意します。それから、目のまんなか、鼻、口を通る顔の中心線の上に鏡を立てます。写真の半分と鏡に映ったその半分とを合わせると、片方の側だけからできた左右対称の顔になります。鏡の向きを変えると、もう片方の側でも同じことができます。

右側だけでできた顔と左側だけでできた顔とは、かなりちがった印象を受けます。目の大きさやほつぺたの形など、右と左では意外に大きく異なっているのです。

顔だけではありません。人の体は、左右対称に思えますが、実は少しちがっていて、手足の長さや筋肉のつきかたなども同じではないのです。

人がまっすぐに歩くのは当たり前のようにですが、実は目で周りの景色を確かめながら体の向きをコントロールしています。そのため、視界のきかない吹雪のときなど、ただやみくもに進んでいくと、弱い足の方に少しずつ曲がっていつてしまします。そして、長い時間歩いたあけく、結局最初と同じ地点にもどつてしまうこともあるのです。

内臓では、右と左はもつとちがいます。たとえば心臓は体の少し左側にあります。赤ちゃんを抱くときに、お母さんは自然と

赤ちゃんの頭が心臓の近くにくるように抱きます。赤ちゃんはお母さんのおなかの中にいるとき、お母さんの心臓の音をずっと聞いていたので、この音を聞くと安心するのかもしれない。

右と左の違いは、普段の生活でも役に立ちます。例えば、野球をするとき、右利きの人は、左手でボールをキャッチし右手でボールを投げます。リングの皮をむくときは、左手でリングを支え右手で包丁を動かします。人間の体は、右と左の違いをうまく生かしているのです。

ここで一句。

「ワインクを 両目でしたら ただのまばたき」

言葉の森長文作成委員会（2）



1 コウモリは、夕方薄暗くなつてから空を飛びまわる動物です。その黒い影が、少し気味が悪いということで、怖がる人もいます。

しかし、南の国には、とてもかわいいうコウモリがいます。2 フ

ルーツコウモリといって、金色でむくむくしていて、まるでぬいぐるみのようです。コウモリはふつう虫などを食べますが、このフルーツコウモリは、果物や花の花粉を食べます。

3 南の国には、おいしくて甘い果物がどこにでもたくさんみつけています。マンゴーやパイナップルなど、汁気もたっぷりのみずみずしい果物です。4 こうしたところでは、コウモリが果物を食べて種を落としたり、花粉を運んだりすることによって、その果物や花の繁殖を助けています。

5 このコウモリはおいしい果物ばかり食べているので、清潔でしかも肉の味がとてもよく、地元の人がつかまえて食べるようになります。

そこで、コウモリも知恵を使って、お寺の広い庭の木にすむようになります。6 どうしてかというところ、南の国では、お寺の中にいる生き物は、決して殺してはいけないという決まりがあるからです。コウモリたちは、なぜかそのことを知って、お寺にすむようになったのです。

7 南の国のお寺にいくと、庭には、野良猫や野良犬がのんびりし、木には、金色のフルーツコウモリがたくさんぶらさがつて、これものんびりしています。8 その様子は、まるでコウモリの形をした果物がたくさんみえるようです。昼間は暑いので、コウモリたちは、片方の羽を使ってばたばた体をあおいでいます。

9 「コウモリさん、フルーツをどうやって食べるんですか。」
「コウ、モリモリ食べるんだよ。」

言葉の森長文作成委員会（一）



チョコレート、キャンディー、ケーキなど、甘いお菓子を
 思い浮かべるだけで幸せな気分になれる人は多いでしょう。それらの
 お菓子を作るのに大切なのが砂糖です。しかし、砂糖にはほかにもい
 ろいろな働きがあります。

その働きのひとつに、カビや微生物が増殖するのを防ぐというも
 のがあります。カビや微生物は湿ったところ、つまり、水分のあると
 ころが好きです。砂糖は、食べ物水分の周りをおおって、微生物や
 カビの働きをにぶらせます。ジャムや果物の缶詰などがその例です。
 果物はほうっておくと傷んだり腐ったりしますが、砂糖とともに調理
 することで長期間保存することができます。

水分を抱え込む砂糖の性質は、生クリームや卵白の泡立てにも一役
 買っています。クリームや卵のたんぱく質の水分を砂糖が抱え込む
 ことによって、泡がくずれるのを防ぎ、また泡同士がくっつくのをを
 おさえてくれます。ふわふわのクリームを作るのには、砂糖が欠かせ
 ないのです。

肉を煮込むときにも、その働きが発揮されます。調理する前の下
 準備の肉に砂糖をすりこんでおく、軟らかく煮ることが出来ます。
 それは、砂糖が肉のたんぱく質の持つ水分を肉の中にとどめておくか
 らです。

甘さを作り出す調味料というイメージの強い砂糖ですが、実際に
 は水分と結びつきやすい性質が私たちの生活の中でいろいろな役割
 をはたしているのです。

働き者の砂糖は、縁の下（えんした）の力持ちなので、決して「えっへん！」と
 いばっているわけではありません。しかし、ダイエットをさげふ人た
 ちからは、かたき扱いされています。「えっ？ 変？ 一生懸命
 働いているのに……。」砂糖からそんな声が聞こえてきそうです。

「カビ君は、どうして砂糖が苦手なの。」
 「だって、砂糖ってサ、トウっても甘いんだもん。」
 長文作成委員会（9）

言葉の森



「鶴の恩返し」や「瓜子姫」のように、日本の昔話には、女の

人が機を織る場面がよく出てきます。

布を織る仕事は、紀元前八〇〇〇年ほど前から始まりました。布を織るためには上から何本も垂らした経糸の間を一本ずつ緯糸を縫うように入れていきます。ですから、一枚の布を織るのも大変時間のかかる作業でした。

この作業は、次第に機織の道具が改良されるようになって早くできるようになりましたが、それでも手作業の機織は時間のかかる仕事でした。

しかし、十八世紀に、イギリスで機械の力を利用した機織機が発明されると、機織のスピードはぐんと上がりました。最初の機織機は水力を使っていたのですが、やがて蒸気力が使われるようになり、機織の仕事は更に能率が上がりました。機械のよいところは故障さえしなければ、疲れを知らずに一日中でも働けることです。このため、イギリスでは、それまでの手仕事を奪われた人たちが、機械を壊すという運動まで起こりました。

中国では紀元前後に複雑な模様を織る機織の道具が作られていました。それは、体重の軽い子供が機織の上に乗って、下からの指示で経糸を複雑に上げたり下げたりするといふものでした。このような複雑な模様は、手作業でなければできませんでしたが、十九世紀にフランスでカードに開けた穴の有無で経糸を上下させる自動織機が開発されました。この発明によって、複雑な織物も簡単にできるようになりました。

現代の日本では、手作業による織物は、伝統工芸のような特殊な分野に残るだけになっています。

眺めました
「自動織機で、あんなに簡単に機織ができるなんて！」
シヨッキを受けた織姫は言いました。
「もう、私ハ、タオリちやいそう。」

言葉の森長文作成委員会（シ）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

日本は世界一の漫画王国とよばれています。大人向けのものまでふくめると、一年間に七億冊以上の漫画が出版されています。漫画をもとにして、アニメーションや映画やテレビ番組もたくさん作られ、いろいろな国の言葉に翻訳されて、世界中の人気を集めています。では、漫画は、いつの時代からあったのでしょうか。いちばん古い漫画は、今から八百年ほど前にかかれたと言われています。それは、京都の高山寺というお寺にある、「鳥獣人物戯画」という絵です。

その中には、人真似をして遊ぶ動物たちがかかれています。始まりは、動物たちの川遊び。川に飛びこむウサギや、泳ぐサル。ウサギに背中を流してもらって、気持ちよさそうなサルもいます。別の絵には、弓矢の練習をしたり、相撲をとって遊んだりするカエルやウサギの様子がかかれています。カエルに投げ飛ばされて、ひっくりかえったウサギのそばで、見物のカエルたちが大わらいしている絵もあります。カエルの仏様にお経をあげているサルのお坊さんの絵もあります。どの動物も生き生きと描かれ、今にも絵の中から飛び出してきそうです。

この昔の漫画には、セリフがかかれておらず、ストーリーもはつきりしません。しかし絵の中には、今の漫画に似たところもあります。たとえば今の漫画では、すばやい動きをあらわすために線を何本もひき、スピードの出ている様子をあらわします。鳥獣人物戯画の中にも、同じようなかき方が見られるのです。

こんな昔から、漫画を楽しんでいた日本人。これからも、たくさんのお名作が生まれ、多くの人に愛されていくことでしょう。

漫画は、世界中に自マンガができる、日本の宝です。しかし、漫画は絵がわかりやすいので、字の多い本は読マンガ、漫画なら読むという生活が続けていると、次第に読む力が低下していきます。字の多い本を読む一方で、漫画も楽しく読み、漫画の読み方についても自マンガができる国にしていきたいでしょう。

言葉の森長文作成委員会（一）



夜の道を歩いていると、何かが黙ってついてきます。あなたが止まると、それも止まります。あなたが歩きはじめると、またどこまでもついてきます。

もちろん、キツネやお化けなどではありません。夜空に明るく輝くもの、それはお月さまです。

月がついてくるのは、電車に乗っていても同じです。電車の窓から見ると、家や電信柱は、どんどん後ろへ飛び去っていきます。遠くに見える山も、近くの家々ほどではありませんが、少しずつ後ろの方へ動いていくように見えます。しかし、空に浮かぶ月は山を越え、町を越え、電車の中のあなたについてくるように見えます。

家、電信柱、山、月。これらを比べて違うのは、電車からの距離です。つまり、遠くのものほど、動かないように見えるのです。

月は、わたしたちの地球を三十個ぐらい並べたほど先にある空のあなたに浮かんでいます。ですから、地球の上を少々移動したくらいでは、月の位置は変わらないように見えるのです。

もちろん、月よりもっと遠くの太陽でも、同じことが言えます。あなたがどんなに動いても太陽はついてきます。しかし、太陽はまぶしすぎて、あまり見上げることはありません。やはり、夜、明るい月が一緒にいてくれるところにこそ、不思議さがあるのでしょう。

地球は月の四倍の大きさです。したがって、もし、月の上を歩きながら地球を見ると、月よりも四倍大きい、青く美しい地球がついてきます。月と地球のツキあいには、遠くても深いものなのです。

「ねえ、どうしてついてくるの？」
「だって、ツキだから。」
「では、もし太陽だったら？」
「やっぱり、ついて行きタイヨウ。」
「甘えん坊なんだね。」

言葉の森長文作成委員会（2）



寝ようとしたら、ブーンという音がして、あわてて灯りをつけたことがありませんか。そして、小さな蚊がどこにいるか見つけようとしたことがあるでしょう。

日本では昔、蚊を防ぐために蚊帳という道具を使っていました。

これは、一ミリメートルほどの細かい網でできている四角いテントのようなもので、部屋の中で四方から吊り下げるようになっていきます。網目が細かいので、蚊は中に入れません。涼しい風は通すことができます。昔の日本人は、蚊の多い暑い夏の夜を、蚊帳の中で風鈴の音を聞きながら涼しく過ごしたのです。

しかし、昭和の後期になると、殺虫剤や下水道が普及した結果、蚊自体が少なくなり、蚊帳は次第に使われなくなっていきました。

ところが、今、この蚊帳が再び注目されています。蚊帳は、電気も薬品も使わない点で、人間にも地球にももちろん蚊にも優しい道具だと考えられるようになってきたのです。

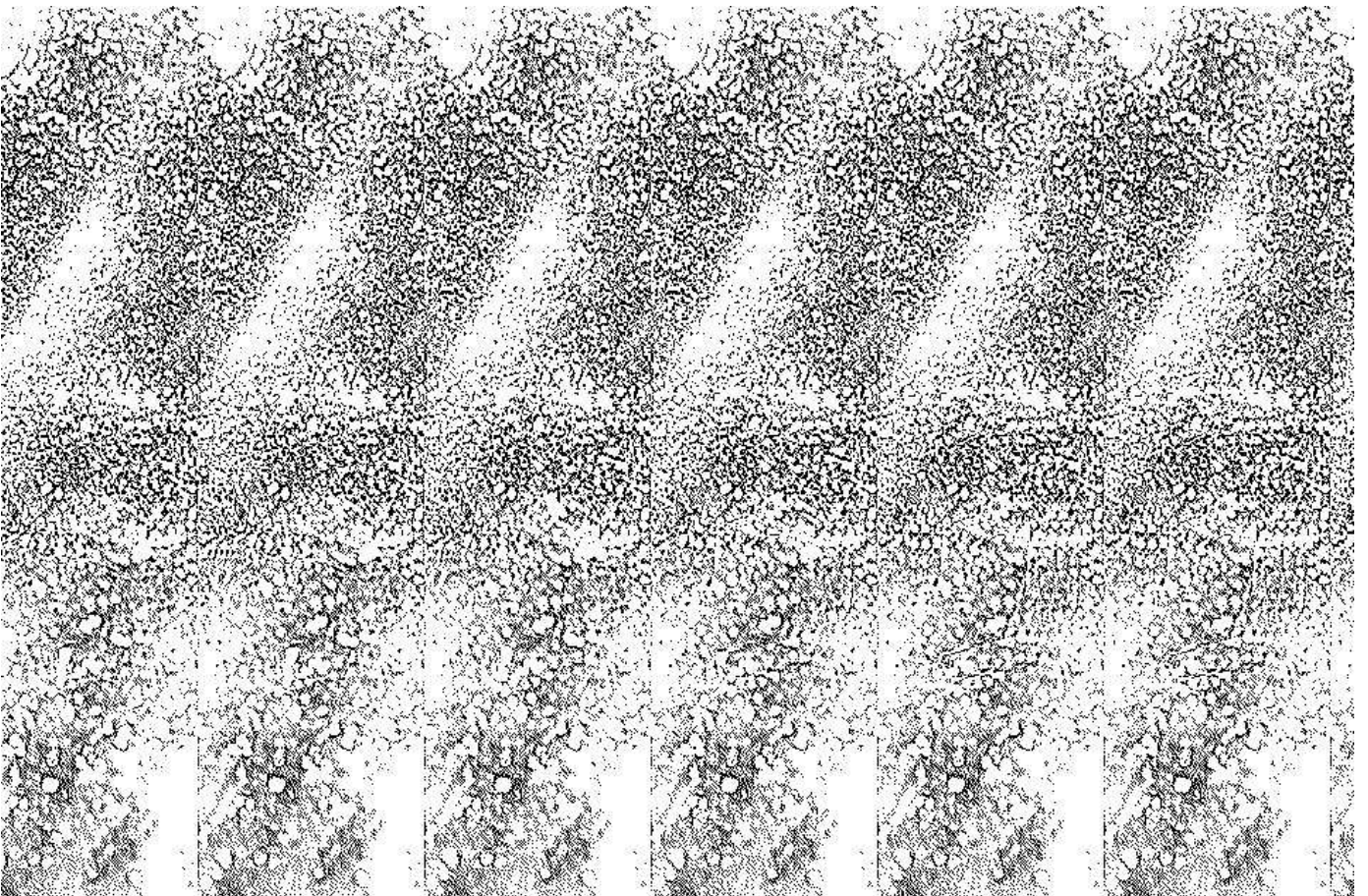
日本は、マラリヤの被害に悩まされるアフリカ諸国にたくさん蚊帳を送っています。これによって多くの子供たちの命が助かっているそうです。日本ではほとんど使われることのなくなった蚊帳も、世界では大活躍をしているのです。日本人のこれからの役割は、より安くより安全な蚊帳を世界中に広めることではないでしょうか。

「ブーン。」

「あ、蚊や。蚊帳に入ろう。」

「しまった。蚊帳に入れた力。ヤーン。」

言葉の森長文作成委員会（2）



たまごはニワトリから生まれます。そのニワトリはたまごから生まれます。さてどちらが先なのでしょう。

たまごをうむ動物は、ニワトリばかりではありません。サケ、マス、カエル、カメ、ヘビ、トカゲ、ハト、キジ、ダチョウ、それに乳で子どもを育てるカモノハシも、たまごをうみます。サケとマスのたまごは見分げがつかないほどよくにいますが、サケのたまごからはサケが、マスのたまごからはマスが、まちがいなくうまれマス。たまごは、その動物の生命を宿したカプセルなのです。

鳥がたまごをうみ、それをひなにかえすには、何日もかかります。その間、親鳥は、外敵からたまごをまもるために、いろいろな工夫をします。

高山にすむライチョウは、ハイマツの中に巣をつくり、巣を枯れ草でわからなくして敵の目をあざむきます。川原にすむコアジサシは、石ころと見分けのつかないようなたまごを小石の上にうみます。コウノトリは、高い木の上に巣をつくり、敵が近づくのをおそれます。このように親鳥たちは、一生懸命たまごを守っています。

では、たまごから子どもになるまでの変化をいろいろな動物でくらべてみましょう。メダカは水中生活をする魚です。カエルは水と陸の両方で生活します。ニワトリは陸だけで生活します。このように、メダカもカエルもニワトリも、生活する場所はちがうし、親になつたときの大きさや形もちがいますが、たまごの中で育つようすをくらべてみると、よくにたところがあります。

ニワトリが先か、タマゴが先か。

「ニワトリさん、お先にどうぞ。」

「いえいえ、タマゴさんこそお先にどうぞ。」

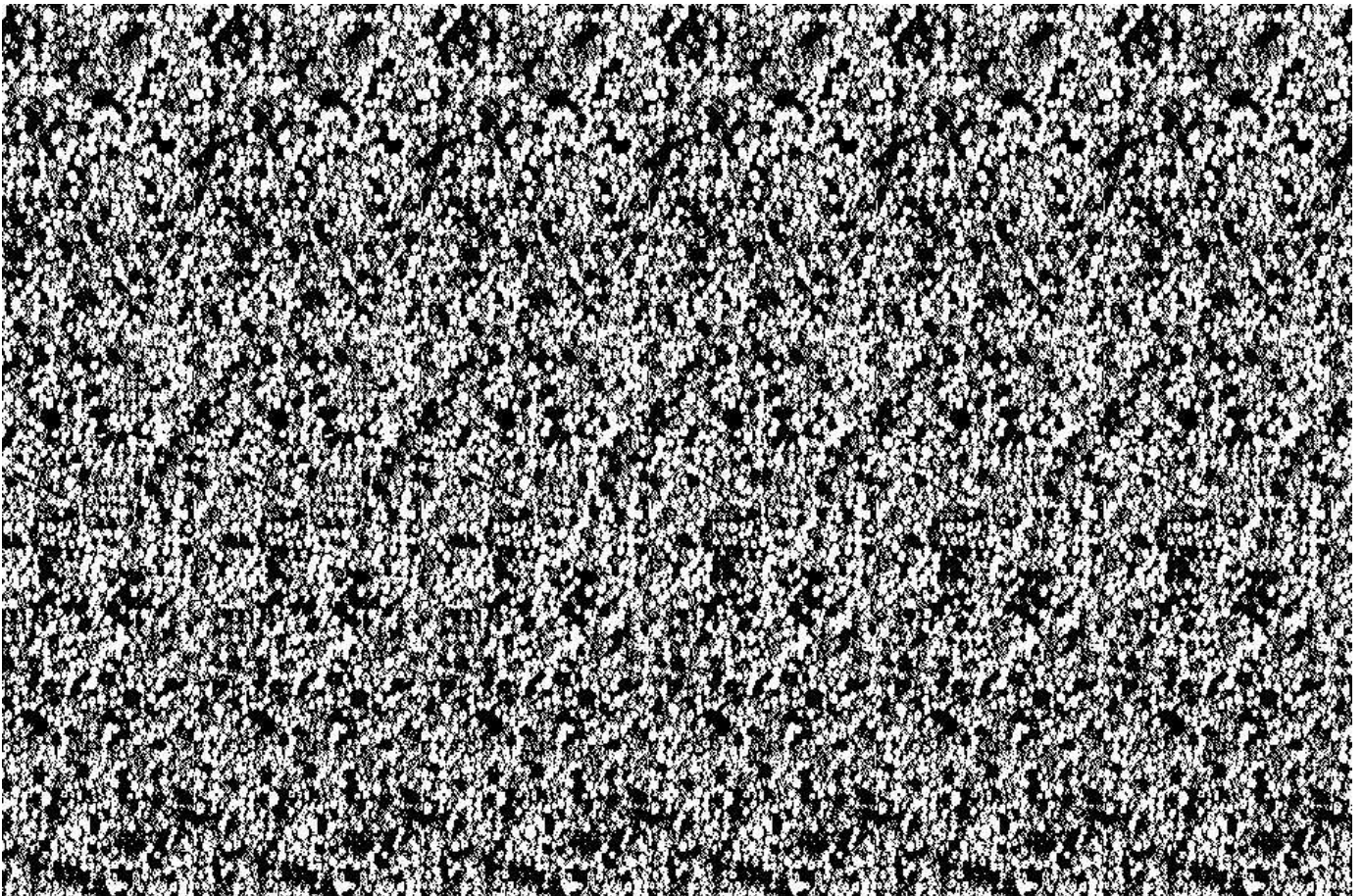
「では、いっしょにそろって。」

「わたしたち、ニタワマトゴリ。」

言葉の森長文作成委員会 (ㄨ)



33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



1 買ってきた野菜の葉に、いも虫がたくさんついていたらどうしますか。普通は「わあ、いやだ」と急いで取り除き、野菜をすっかりきれいにしてから調理するでしょう。2 しかし世界には、いも虫を見て「わあ、おいしそう」と感じる人たちもいるのです。

アフリカの一部では、ガの幼虫であるいも虫が食用にされています。3 それらの地域では、キャッサバやトウモロコシなどのでんぷん質が食事の中心なので、どうしてもたんばく質が不足しがちです。しかし、質のよいたんばく源は高価で手に入りにくいのが現状です。4 ですから、たんばく質のかたまりであるいも虫は大変貴重な補助食品なのです。実際、一皿のいも虫は、大人が一日に必要なタンパク質・ビタミン・ミネラルの約四分の三を含むと言われています。

5 秋の雨の季節が過ぎると、いも虫の収穫が始まります。村の女性たちは、総出でいも虫を集めます。いも虫は内臓を抜き、ゆでてから天日干しにします。6 この乾燥いも虫を、おやつがわりにそのままポリポリと食べるのです。

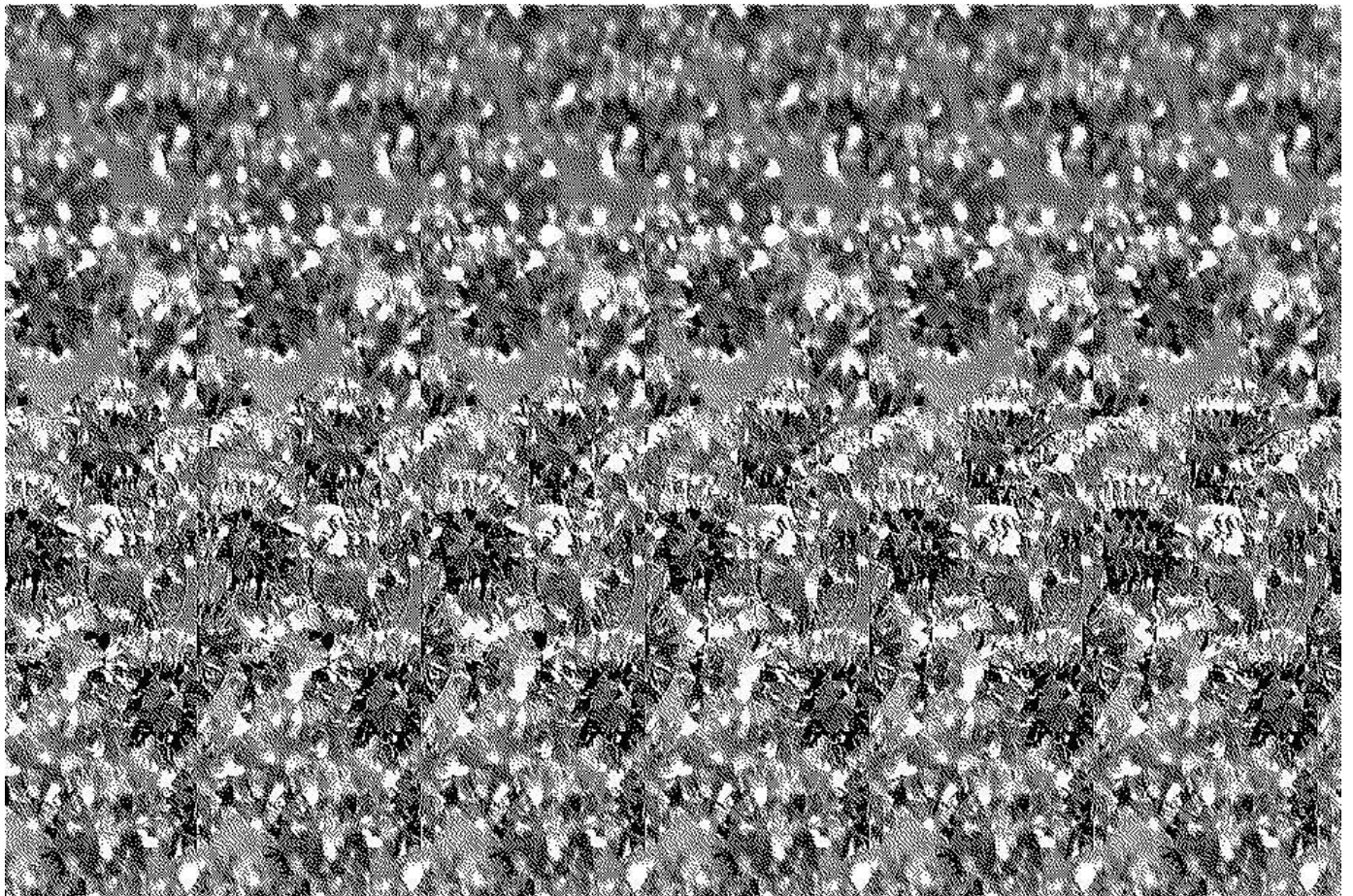
このいも虫は、ただおいしいだけではありません。ある意味で、とても効率のよい食品でもあるのです。7 いも虫は、人間には食べられない有毒の植物でもかまわず食べてくれます。そしてどんどん肥え太り、わずか六週間で体重を四千倍に増やします。8 その丸々としたおいしそうないも虫を、今度は人間が食べるわけです。

「いも虫君、いいねえ。あつたかそうな蓑を着て。」
「それはミノムシ。」

9 「確か、茶碗に入っているんだよね。」
「それはチャワンムシ。」

「ときどき足がかゆくなるけどね。」
「それは、ミズムシ。もう、いいもん。無視。」 0

ことば もりちやうふんさくせいいいんかい
言葉の森長文作成委員会 (一)



トライアスロンの競技の歴史はまだ新しく、二十世紀の後半に最初の大会が開催されました。トライアスロンとは、ギリシャ語で「三」を意味するトライと、「賞品」を意味するアスロンを合わせてできた言葉です。その名のとおり、水泳、ランニング、自転車の三種目を続けて行ない、その総合タイムを競うレースです。どれか一つだけでも体力のいるハードな競技ですが、それをひとりで三つもこなすということで、鉄人レースともよばれています。

この競技が生まれたのは、ハワイのオアフ島でした。海兵隊員たちが、一日の仕事を終えて、ビールを飲みながらくつろいでいるとき、オアフ島で行なわれている三つの競技のうち、どれがいちばん大変かという議論になりました。三つの競技というのは、オアフ島一周の自転車レース、ホノルルマラソン大会、ワイキキビーチでの遠泳大会のことです。だれもが、自分の出場した競技こそが最も苦しかったと自慢げに話すので、いくら話し合っても答えは出ませんでした。そのとき、ビールを飲んで酔っぱらっていた海軍司令官のジョン・コリンズは、ある提案をしました。この三つの競技を合わせて一つの競技にしたかどうかというのです。

まさか本気で挑戦する者はいないだろうと、コリンズはほんの冗談のつもりで提案したのですが、実際に競技に参加する人があらわれしました。現在では、日本でも毎年多くの大会が開かれています。また、二〇〇〇年に行なわれたシドニーオリンピックから、トライアスロンは正式種目になっています。

「ぼくも、新しい競技を考えついた。」
「なあに。」
「ドッジボールと槍投げと火の輪くぐりを組み合わせるんだ。」
「今度のオリンピックで採用されるといいね。」
「だれも出ないと思うけど。」

言葉の森長文作成委員会（ㇿ）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

1 脊椎動物のほとんどは、生まれたときから性別が決まっております。途中で変化することはありません。ところが、同じ脊椎動物でも、魚には、オスがメスへ、メスがオスへと変化したり、生まれながらにして雌雄同体のものがあります。

2 オスからメスへ変化するものとして代表的なのは、クマノミの仲間です。クマノミは、毒を持つイソギンチャクと一緒に暮らすことで有名です。3 ひとつのイソギンチャクに、オスとメス一匹ずつの成魚と、体の小さな幼魚の数匹で暮らしていることが多いのですが、この成魚と幼魚の間に、親子関係はありません。クマノミの稚魚は、卵から孵化すると、すぐに生まれたイソギンチャクを離れ、しばらく海の中で浮遊生活を続けます。4 そして、全く別のイソギンチャクにたどりつき、そこで元から住んでいる縁もゆかりもないクマノミたちと共同生活を始めます。これは、親子で繁殖してしまいう危険をさけるための工夫です。

5 同じひとつのイソギンチャクの中に暮らしているクマノミたちは、体の大きさに違いがあります。群れの中でいちばん大きいのがメス、次に大きいのがオスです。6 三番め以降の魚たちは、オスでもメスでもない未成熟な個体です。卵を産むのはメスですが、その卵を守るのは、おもにオスの役目です。7 何らかの原因で、いちばん大きいメスが死んでしまうと、オスが性転換をしてメスになり、オスの次に大きい未成熟な個体がオスになって繁殖に参加します。クマノミの世界には、このようにきちんとした秩序があります。

8 なぜいちばん大きい個体がメスになるかというと、メスは体が大きいほどたくさんの卵を産むことができるからです。

9 「わたし、昨日までオスだったメスで、名前はクマオよ。」「ぼくは、今日からオスになった、名前はクマコなんだ。」「何だか、呼び方にクマつちやうね。」

言葉の森長文作成委員会（ㇿ）



読解問題 7月4週分

問1 読解マラソン 集 1 番「高地での生活」を読んで問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
高地で、作るのに時間がかかるものはどれですか。

- 1 パン 2 ケーキ 3 ゆで卵 4 なま卵

問2 読解マラソン 集 1 番「高地での生活」を読んで問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。
高地に行ったときに、注意することはなんですか。

- 1 お天気 2 食糧不足 3 少ない酸素 4 運動不足

問3 読解マラソン 集 2 番「右と左」を読んで問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

- 1 右足と左足では、筋肉のつき方が少しちがっている 2 人間の顔は、ぴったり左右対象になっている 3 人は目をつぶ
ぶっけていても、ずっとまっすぐ歩くことができる 4 吹雪でまようのは、足が弱いからだ

問4 読解マラソン 集 2 番「右と左」を読んで問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

- 1 赤ちゃんは、お母さんに抱かれると泣きやむ 2 赤ちゃんは、お母さんの心臓の音をきくと安心するらしい 3 右利きの
ほうが、野球がうまくなる 4 包丁は、右手で動かすように作られている

問5 読解マラソン 集 3 番「果物を食べるコウモリ」を読んで問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

- 1 コウモリは夜に飛ぶので、害のある動物だと思われる 2 南の島には、フルーツのようにかわいかたちのコウモリ
がいる 3 コウモリに食べられるので、果物の木が減っている 4 フルーツコウモリが清潔なのは、果物ばかり食べているからである

問6 読解マラソン 集 3 番「果物を食べるコウモリ」を読んで問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

- 1 フルーツコウモリは、暑さに弱い生き物だ 2 野良猫や野良犬は、お寺のおそなえものをねらっている。 3 南の国では、お寺が生き物を飼っている 4 お寺は、フルーツコウモリにとって安全な場所である

問7 読解マラソン 集 4 番「働き者の砂糖」を読んで問題に答えましょう。

正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

- 1 どんなお菓子も、砂糖がないと作れない 2 生クリームは、長期間保存することができる 3 砂糖は、微生物やカビが
呼吸できないようにする 4 ジャムは、腐りにくい食べ物だ

問8 読解マラソン 集 4 番「働き者の砂糖」を読んで問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

- 1 砂糖は、物を甘くする以外の働きも持っている 2 煮込んだ肉に砂糖をすりこむとやわらかくなる 3 砂糖は、水分と
結びつくと甘くなる 4 砂糖は、健康によくない食品だ

読解問題 8月4週分

問1 読解マラソン 集 5 番「機織の歴史」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 日本の昔話では、男の人が機を織ることが多かった 2 布を織るためには、上からたらした糸の間を縫うように糸を入れた 3 布を織る仕事は、あまり時間のかかる作業ではなかった 4 機織の道具は、改良することができなかった

問2 読解マラソン 集 5 番「機織の歴史」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 イギリスで発明された最初の機織機は水力を使っていた 2 水力の機織機のすぐあと、電力が使われるようになった 3 機械に比べて人間のよいところは、疲れを知らずに一日中でも働けることだ 4 イギリスでは、手仕事を奪われた人たちが、協力して機械を作り出した

問3 読解マラソン 集 6 番「いちばん古い漫画」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 日本は世界第三位の漫画王国とよばれている 2 日本のマンガは、いろいろな国の言葉に翻訳されている 3 昔は漫画というものがなく、漫画は最近できたものだ 4 日本のいちばん古い漫画は、東京のお寺にある

問4 読解マラソン 集 6 番「いちばん古い漫画」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 「鳥獣戯画」という昔の漫画にも、セリフが書かれていた 2 「鳥獣戯画」は、ストーリーのわかりやすい漫画だった 3 「鳥獣戯画」には、スピードを表すために線を引くような書き方がある 4 「鳥獣戯画」は、動物の格好をした人間でえがかれている

問5 読解マラソン 集 7 番「地球の友達、月」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 電車の窓から見ると、家や柱は前へ飛び去るように見える 2 遠くに見える山は、近くの家よりも速く動いているように見える 3 電車からの距離が近いものは、動かないように見える 4 地球の上を少し移動したぐらいでは、月の位置は変わらないように見える

問6 読解マラソン 集 7 番「地球の友達、月」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 月はついてくるように見えるが、太陽はついてこないように見える 2 月の上を歩くと、地球はついてくるようには見えな 3 地球から見て、月は太陽よりも遠い 4 月の上から地球を見ると、地球から月を見るときに四倍ぐらい大きく見える

問7 読解マラソン 集 8 番「世界に広がる蚊帳」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 日本には、昔、蚊はいなかった 2 蚊帳は、部屋の中で四方から吊り下げる 3 蚊帳は、テントのようなもので家の外で張ることが多い 4 蚊帳は、風鈴の音を聞くための道具だった

問8 読解マラソン 集 8 番「世界に広がる蚊帳」を読んで次の問題に答えましょう。正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 昭和の後期になると、蚊帳はますます使われるようになった 2 蚊帳は、電気や薬品を使わないので、地球環境に優しい 3 日本は、アフリカ諸国から蚊帳をたくさん買っている 4 蚊帳を使っているのは、今では日本だけだ

読解問題 9月4週分

問1 読解マラソン 集 9 番「生命を宿したカプセル」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 ヘビヤトカゲは、たまごをうまない 2 ダチョウは、たまごをうまない 3 カモノハシは、乳で育てるのでたまごをうまない 4 マスのたまごから生まれるのはマスである

問2 読解マラソン 集 9 番「生命を宿したカプセル」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 ライチョウは、ハイマツの中で巣を作り、たまごをハイマツであたためる 2 コアジサシは、川原の石ころの近くにたまごをうむ 3 コウノトリは、高い木のよこに穴をほって巣を作る 4 メダカとカエルとニワトリでは、たまごの中で育つようすが全然ちがう

問3 読解マラソン 集 10 番「おいしいいも虫はいかが？」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 アフリカの一部では、いも虫が食用にされている 2 いも虫は、でんぷん質の食べ物である 3 いも虫は、とても高価な食べ物である 4 いも虫は、大人が一日に必要なたんぱく質やビタミンのすべてを含んでいる

問4 読解マラソン 集 10 番「おいしいいも虫はいかが？」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 いも虫をとるのは、子供たちの仕事である 2 いも虫の内臓は、塩辛にして食べる 3 乾燥いも虫は、おやつがわりになる 4 いも虫は、有毒の植物は食べない

問5 読解マラソン 集 11 番「冗談から生まれたトライアスロン」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 トライアスロンの歴史は、ギリシア時代までさかのぼる 2 トライアスロンのトライは「三」という意味である 3 トライアスロンは、水泳、ランニング、自転車のどれかの種目に出ればよい 4 トライアスロンの三つの種目は、三人で分担してこなしてもよい

問6 読解マラソン 集 11 番「冗談から生まれたトライアスロン」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 ハワイでは、昔から現地の人たちの間でトライアスロンが行われていた 2 最初のトライアスロンでは、ほとんどの人が完走できなかった 3 トライアスロンは、まだオリンピックの競技にはなっていない 4 最初のトライアスロンは、冗談のような提案から始まった

問7 読解マラソン 集 12 番「クマノミの知恵」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 クマノミは、毒のない安全なイソギンチャクと一緒に暮らしている 2 一つのイソギンチャクの中にいるクマノミたちは、親子や兄弟である 3 クマノミは自分が生まれたイソギンチャクとは別のイソギンチャクで暮らす 4 一つのイソギンチャクには、一匹のクマノミしかいない

問8 読解マラソン 集 12 番「クマノミの知恵」を読んで次の問題に答えましょう。 正しいものを選び、番号の数字を書きなさい。

1 一つのイソギンチャクの中でいちばん大きいクマノミはオスである 2 一つのイソギンチャクの中で三番目に大きいクマノミは大体メスである 3 クマノミは、栄養がいいとほとんどがメスになる 4 いちばん大きいメスのクマノミがいなくなると、次に大きいオスがメスになる